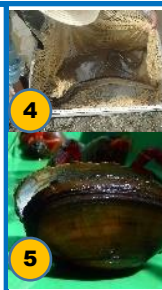


事業の背景・目的

旧品井沼周辺ため池：絶滅危惧種シナイモツゴ①とゼニタナゴ②が生息。大崎市天然記念物、重要湿地500指定。



1995年からブラックバスがため池で繁殖。2002年から池干し③でバス駆除。シナイモツゴの生息池を増やし、小川ではウナギも出現した④。



ブラックバス減少に伴いアメリカザリガニが増加。二枚貝が減少⑤、ゼニタナゴや昆虫が激減、絶滅必至の状態に陥っている。

アメリカザリガニ成体を捕獲する連続捕獲装置⑥と小型幼体を捕獲する人工水草⑦を開発。



オオクチバスとアメリカザリガニを同時に長期継続して防除する住民主体の体制構築をめざす。

事業の内容

ア 外来種防除事業

- ①オオクチバスの防除
 - ・バス侵入監視パトロール①
 - ・ため池等でバス生息調査
- ②アメリカザリガニの防除
 - ・大・中規模ため池における簡易な捕獲ツール②による住民主体の防除③



イ 生息環境復元・効果検証事業

- ①環境復元活動
 - ・人工水草設置④で水生昆虫を復元。保護ネットで二枚貝を保護。
- ②ため池と川のモニタリング：住民や小学生による生き物調査⑤で復元効果を検証。

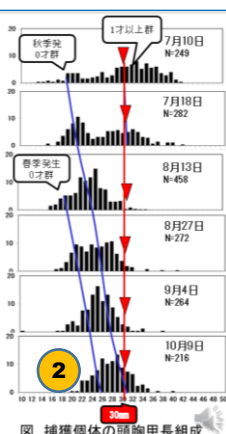


ウ 保全体制強化事業

- ①シンポジウム開催
 - ・全国シンポジウム（10月）と地域研修会（2月）をWEB開催⑥し成果発信。
- ②後継者育成学習会など開催
 - ・小中生60名が現地観察会参加。
 - ・シナイモツゴ里親の小学生100名が放流会に参加、里山ため池の環境保全推進をアピール⑦。

得られた成果

- ①バス釣人とオオクチバスの侵入は見られず、監視パトロールは抑止効果がある模様。
- ②住民主体で7～11月に週1回アメリカザリガニを捕獲、大規模ため池（35,000m²）全体で捕獲を開始①、1か月で大型個体の大半を捕獲②。
- ③人工水草は小型ザリガニを効率良く捕獲する③④。同時に、トンボ類幼虫、トビケラ⑤、ミヤケミズムシ⑥等が住場や繁殖場として利用。
- ④アメリカザリガニが低密度化した水域でタガイが発生⑦。



- ④小中高校生対象の生き物観察会では、採集者が多いため精度の高いモニタリング結果が得られた。
- ⑤シンポジウムのWEB開催では開催期間中に全国から1,000回以上の視聴があり、高い情報発信能力が確認された。コロナ終息後も会場開催と併用することで啓発効果の向上が期待される。